

自分からできるようになるための「支援」

教頭 時田 航

児童生徒に接するとき心掛けているのは、一人一人に適切な支援や接し方をすることです。例えば「あいさつ」。児童生徒には、自分からあいさつしましょうと指導していますので、先生方も玄関で自分からあいさつしている姿を見かけます。それがいけないということではありませんが、本当に一人一人に適切な支援かという、相手によってはそうではない場合もあると思います。小学部の低学年の児童など「あいさつができるようになること」をねらいにしている場合は、教師からあいさつする支援が必要だと思います。一方、あいさつすることができるようになり「自分から進んであいさつができるようになること」をねらいにしている場合は、教師からあいさつしてしまうと自分から進んであいさつする機会を奪ってしまう場合があります。

私はよく先生方に「やってあげないでくださいね」とお願いしています。それは、児童生徒が「自分からできるようになる」ための支援の一つだと考えているからです。学校全体で、一人一人に合った自立と社会参加を目指して、支援をしていきたいと思っています。

秋田県特別支援学校職業教育フェア（県央地区）

10月12日（水）、栗田支援学校にて県央地区職業教育フェアが開催されました。一般企業やハローワーク等に地域の特別支援学校の生徒の職業能力や職業教育の取組についての理解を深めてもらい、その雇用の促進と職業教育の充実を図ることを目的に、毎年開催されています。

第11回となる技能競技会「錬成会」には、「喫茶サービス」と「ビルクリーニング」の2部門があり、本校からは梶原颯希さん（高1）、佐々木多希人さん（高2）が「ビルクリーニング競技」に出場しました。一般企業の方を審査員としてお招きしており、とても緊張感のある会場でした。そんな中、これまで取り組んできたことを二人とも精一杯出し切り、佐々木多希人さんが見事金賞を受賞しました。競技終了後にはさらに技術を向上するために、審査員より実技指導をして頂き、それぞれ領きながら熱心に話を聞いていました。



高等部2年 II期現場・校内実習

高等部2年生は11月7日～18日の10日間、現場・校内実習を行いました。
6月の現場実習での課題を振り返り、それぞれ新たな目標を立てて臨みました。
今回の実習では、通勤に使っている路線バスが遅れ、次のバスに乗り継ぎができなかった場合や実習中に職場で体調が悪くなった場合、その場で自分から連絡をしたり、実習先の方に相談をしたりと臨機応変な対応が必要な事がありました。働く上での「知識・技能」に加え、自分の状態を正確に把握し相手に伝えるコミュニケーション力、臨機応変に対応する柔軟性等、今後身に付けていくべき力を考える良い機会となりました。



ルピコン株式会社秋田事業所
(ダンボール組み立て作業)



Lead 本荘
(施設外就労)



障がい者自立支援センター「和」
(弁当の配食作業)

施設見学～中学部3年～

中学部3年生では、進路学習の一環として「障がい者支援事業所 ぼぼろの家」(生活介護)、「Lead 本荘 (就労継続支援 B 型事業所)」、「イオンスーパーセンター本荘店」(一般就労)へ保護者の方も一緒に3グループに分かれて施設見学をしました。

「ぼぼろの家」では、先輩の缶潰しやブルタブ外しの作業の様子を見学し、他の作業や一日の過ごし方などについてのお話を伺いました。「Lead 本荘」では、先輩方が小物づくりをしている様子を見学しました。また、仕事のことや休日の過ごし方について質問をすると、具体的に教えていただきました。「イオンスーパーセンター」では、お惣菜作りや、パック詰めをしている様子を見学しました。お店の方からは、働くために必要なこととして「元気なこと」「自分からあいさつをすること」などのお話を伺いました。どのグループも今後の生活のために必要なお話を聞くことができ、とても有意義な見学となりました。



ぼぼろの家



Lead 本荘



イオンスーパーセンター本荘店